



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	まとめ
Author(s)	池ノ上, 真一
Description	第3章
Relation	地域社会による文化資産マネジメントとツーリズム : 沖縄県・竹富島の事例研究 = How Can Tourism Aid the Continuous Development of Communities? : The Case Study on Taketomi-Island
Citation	CATS 叢書, 6, 103-112
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/49438">https://hdl.handle.net/2115/49438</a>
Rights	© 2012 池ノ上真一
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/">https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS06_004.pdf



## 第3章 まとめ

### 3.1. 竹富島における文化資産マネジメント

本著では、沖縄県・竹富島という一事例ではあるが、ひとつの地域社会としての空間的、社会的構造を明確にもつ地域を研究事例地とすることで、地域社会が持続的に発展する構造を明らかにするため、その構成要素として地域社会の「主体」、「システム」、そして地域総体であり、資源価値を有する「文化資産」によって捉え、さらに地域社会の営みについて民間セクターの活動を表す「仕事」と公共セクターにおける「役割」とで各要素の関係性について言及してきた。

現在の竹富島では、ツーリズム関連業が基幹産業となるなど、ツーリズムとの関係構築が地域社会の発展にとって命題となっている。近代から現代にかけての地域社会の環境条件の変化に伴い、民間セクターでは「仕事」を転換させることでツーリズムインパクトの経済的な効果を受容する「システム」を構築してきた。また、外部地域との異文化交流を展開させることで、自らが持つ文化資産の資源価値を顕在化させてきたのは、公共セクターであった。

従来の地域社会の「主体」の形成構造としては、ほぼすべての地域住民が地域内での生活者として民間セクターの一員であると同時に、地域内で人生を送る上でなんらかの「役割」を担うことで公共セクターでの務めを果たすことから、双方の取り組みは相互に関連し発展していた。また「文化資産」は、そのような地域社会の「システム」から生み出され、「仕事」において生かされることで継承されてきた。その「文化資産」は、竹富島の自然環境を背景とした地域社会の「主体」による「システム」構築と運用のための営みの成果であり、まさに地域総体であった。

しかし現在は、かつての空間的、人為的に地域社会と外部地域とを隔てていた障害が大きく取り除かれている中で、ツーリズムの観光関連産業による傾斜した活用が先行しているなかで、これまでの「仕事」や「役割」といった地域社会の「主体」と「システム」の形成に関係してきた社会的な要素に関して、必ずしも連続性をもって現在の地域社会で継承されているとは言いがたい。す

なわち、現在の地域社会にとっては、自らが有する文化資産を持続的な発展のために有効にマネジメントすることが課題である。言い換えれば、地域社会は文化資産マネジメントをすることで、地域社会を自律的に経営し、持続的に発展させることが可能といえる。

### 3.2. ツーリズムを機軸とした文化資産マネジメントの可能性

本著では、沖縄県・竹富島を事例対象地とすることで、地域社会を空間的、社会的に明確に捉えることができる地域を取り上げたが、特に、高坂（2008）や川勝（1997）が主張する「海洋国家」の特質をもつ、大陸や主島に近接し海洋に囲まれた島であることを対象地選定の大きな理由とした。その上で、竹富島の地域社会の独立性や自律性について着目すると同時に、特にツーリズムによる外部地域との影響関係についても言及した。

そこで竹富島では、地域社会による地域外部からの影響を活用した取り組みが行われてきたことが分かった。歴史的に経験した外部地域からの影響に対し、地域社会の黎明期から現代まで地域社会としての連続性がみられることから、単に受動的に社会変容したとは考えられない。むしろ、特に民間セクターを中心に、従前の考え方や制度が住民の生活の中で継承され、地域社会が自律的に環境条件に適応することで新たな公共セクターを構築したと捉えることができる。本著の序章で定義したとおり、ツーリズムとは、目的とする地域、交通条件、発地における社会条件という変数によって表される社会現象である。現代の地域社会が、その運営、発展において、交流や観光といったツーリズムからの効果を活用するためには、外部地域がそれを行う動機や方法といった要件への対応が必要であり、そのためには自律的な社会構造の変革が重要であることが分かった。以上から竹富島における事例研究では、地域社会による自律的なツーリズムの活用の原型といえる外部からのインパクトにおける地域社会の適応の仕組みを捉えることが出来たと言える。

しかしその竹富島において、地域社会を構成する「主体」、「システム」、「文化資産」との関係性に生じた不整合への対応が、地域社会の抱える課題であった。その課題解決の道筋としては、文化資産を用いることで、地域総体としての特質に着目した公共セクターにおける地域社会発展の将来ヴィジョンの形成と、資源としての特質に着目した民間セクターにおける観光を活用した取り組みとを連関させることであった。そしてそのためには、地域社会の営みを構成する「役割」と「仕事」とについて、現在の地域社会を取り巻く環境条件

を踏まえ、ツーリズムを活用した社会構造の再構築が必要である。言い換えれば、ツーリズムを機軸とした文化資産マネジメントが、今後の竹富島の地域社会を発展させる方策といえる。

このことは、他の地域社会においても、概して同様のことが言えるのではないだろうか。竹富島でみた外部地域における社会的な環境変化は、少なくとも日本国内に関して言えば、同様の状況といえる地域が多くみられる。農林水産業といった第1次産業を基盤として成立した地域では、流通のグローバル化のなかで、産業としての発展性について課題をもっていることが多い。また、製造加工業などの第2次産業を基盤に成立した地域においても、同様の状況を迎えている地域がみられる。そういった地域に共通する課題としては、流通のグローバル化に対し自律的な仕組みへと社会構造を変革することではないだろうか。その中で本著で言及してきた、ツーリズムを機軸とした文化資産マネジメントは、有効な方策のひとつとして挙げるができる。ツーリズムは、観光をとおした経済活動、異文化交流の機会の創出をはじめ、地域の広報機会として捉えることもできることから、地域の第1次産業、第2次産業における生産物の流通促進や、地域への移住者としての可能性をもったファンや支援者の獲得機会の創出といった効果を期待できる。一方、近年見ることができる安易な観光振興の取り組みでは、いわゆる観光三業と呼ばれる運輸業、宿泊業、旅行業のみの振興に偏重しがちであることから、以上のツーリズムによる地域社会としての効果への考慮が重要である。

### 3.3. おわりに

本著では、沖縄県・竹富島を研究事例地とすることで、地域社会が持続的に発展するため、ツーリズムを効果的に活用するための条件とはいかなるものかを論じる上で、第1章では地域総体である文化資産を体系的に捉えることで、その資源価値と課題とを明確にし、第2章では民間セクターの「仕事」と公共セクターの「役割」という観点から、「文化資産」と地域社会の「主体」と「システム」との関係について分析を行った。最後に、竹富島における文化資産マネジメントについて整理するとともに、ツーリズムを機軸とした地域社会の発展方策の有効性について言及した。

大交流時代（石森 2008）といわれる現代において、地域社会が持続的に発展するためにツーリズムを機軸とした仕組みをいかに構築するべきかは、多くの地域にとって大きな課題となっている。しかし、自然環境、歴史、地域社会の規模、民族、主な生業といった地域特性が違う地域においては、竹富島を対象地として論じた方法論が、必ずしも適合するとは限らない。また、それぞれの地域における地域特性に応じて、地域社会の成立条件を付加することも必要となるであろう。

また本著では、ツーリズムを機軸とした地域社会の発展の有効性に関して、理論構築をすることが主な目的であった。これを地域において実現するためには、社会構造の変革のための方策に関し、ツーリズムと地域の既存産業との連携、文化資産の再創造につながる社会的仕掛けづくり、地域社会がツーリズム効果を最大化する方策、ツーリズムを活用した文化資産の活用方策、地域間交流を促進するための仕掛けづくりといったテーマについての実践的研究が必要であると言える。そのためには、持続的な地域社会の発展における変革とはいかなるものか、またその際に機軸として挙げられるツーリズムと地域社会との関係性についての理論化が待たれる。今後は、地域総体である文化資産、ツーリズムの形態、地域特性や地域社会を取り巻く環境条件といった観点において相異点をもつ地域を事例対象地とした研究を重ねることで、それらのニーズに寄与していきたい。

## 参考文献

Rossides, J. N.

- 1984 “The Role of Tourism in Regional Development and Alternative Planning Strategies with Special Reference to Island Contexts.”, 京都大学学位論文

Smith, L. V.

- 1991 『観光・リゾート開発の人類学—ホスト&ゲスト論でみる地域文化の対応』, 三村浩史監訳, 勁草書房

アルフレッド・T・マハン

- 2008 『マハン海上権力史論』, 北村謙一訳, 原書房

シュムペーターJ.A.

- 1977 『経済発展の理論(上)』, 中山伊知郎、塩野谷祐一、東畑精一翻訳, 岩波新書

池ノ上真一、西山徳明

- 2004 「文化遺産の明確化とその管理状況 沖縄県・竹富島における文化遺産マネジメントとツーリズムに関する研究 その1」, 日本建築学会
- 2007 「文化遺産のマネジメントシステムの構築条件 沖縄県・竹富島における文化遺産マネジメントとツーリズムに関する研究 その2」, 日本建築学会

石澤良昭

- 1995 『講座 文明と環境 第12巻 文化遺産の保存と環境』, 朝倉書店

石森秀三

- 1998 「観光革命が世界を変える」, 『観光文明学のすすめ Academia 学術新報 174』, 財団法人全国日本学生会

石森秀三、西山徳明、他

- 2001 『国立民族学博物館調査報告21 ヘリテージ・ツーリズムの総合的研究』, 国立民族学博物館

石森秀三、真板昭夫、他

- 2001 『国立民族学博物館調査報告23 エコツーリズムの総合的研究』, 国立民族学博物館

上勢頭亨

- 1976 『竹富島誌 民話・民俗編』, 法政大学出版局

## 上間廣起

- 1987 「第二章 上間廣起の回顧録」, 『竹富村初代民選村長 上間廣起生誕百年記念誌』, 上間廣起生誕百年記念事業期成会

## 上間廣起生誕百年記念事業期成会

- 1987 『竹富村初代民選村長 上間廣起生誕百年記念誌』, 記念誌編集委員会編, 上間廣起生誕百年記念事業期成会

## 大山正夫

- 1985 『昭和の竹富』  
1991 『続・昭和の竹富』

## 沖縄県教育委員会

- 1994 『沖縄県文化財調査報告書 第113集 くすく クスク分布調査報告書(Ⅲ)八重山諸島』, 沖縄県教育委員会

## 小野正敏

- 1997 「中世八重山の村と遺跡」, 『第25回歴博フォーラム 再発見・八重山の村』, 国立歴史民俗博物館

## 亀井秀一

- 1990 『竹富島の歴史と民俗』, 角川書店

## 川勝平太

- 1997 『文明の海洋史観』, 中公叢書

## 木原啓吉

- 1982 『歴史的環境 保存と再生』, 岩波新書

## 記念誌作成委員会

- 1993 『竹富町立竹富小学校創立百周年記念誌 うつぐみ』

## 九州芸術工科大学環境研究室・都市環境研究室

- 2000 『竹富島の集落と民家 竹富島伝統的建造物群保存地区保存計画見直し調査報告書』, 竹富町教育委員会

## 高口愛

- 2010 『伝統的景観を継承する地域の景観管理能力に関する研究』, 九州大学学位論文

高口愛、西山徳明

- 2000 『伝統的景観管理とその変遷 竹富島集落における景観管理能力の発展条件に関する研究 その1』, 審査付論文, 日本建築学会, pp. 133-140.

高坂正堯

- 2008 『海洋国家日本の構想』, 中央公論新社

国立歴史民俗博物館

- 1997 『第25回歴博フォーラム 再発見・八重山の村』, 国立歴史民俗博物館  
1999 『歴博フォーラム「再発見・八重山の村」の記録 村が語る沖縄の歴史』, 新人物往来社

敷田麻実、森重昌之

- 2008 「持続可能な自律的観光における中間システムとマネジメントについての分析北海道浜中町の霧多布湿原トラストの事例分析からの示唆」, 日本観光研究学会

陣内秀信・法政大学大学院エコ地域デザイン研究所

- 2004 『エコロジーと歴史にもとづく地域デザイン』, 学芸出版

全国竹富島文化協会

- 1998 『沖縄県竹富島の種子取祭台本集 芸能の原風景』, 瑞木書房

竹富町企画課

- 1998 『大自然交響ランド 町政施行50周年記念 竹富町 平成10年度版 竹富町勢要覧』

竹富町教育委員会

- 1987 『竹富町竹富島歴史的景観形成地区保存計画書』, 竹富町役場  
1994 『竹富島景観形成マニュアル』, 竹富町教育委員会

竹富町史編集委員会

- 2005 『竹富町史 第十巻資料編 近代 I 竹富島喜宝院蒐集館文書』, 竹富町役場

竹富町史編集委員会

- 1993 『竹富町史・別巻3 写真集 ばいぬしまじま 写真にみる竹富町のあゆみ』, 竹富町役場  
1974 『竹富町誌』, 竹富町役場

竹富町織物事業協同組合

- 1989 『ミンサーの歴史と織・染』

## 竹富島保全対策研究会

1992 『竹富島保全整備対策検討会関連資料』， 環境庁西表国立公園管理事務所

## 辻弘

1985 『竹富島 いまむかし』， 辻理容所

## 堤信一郎、西山徳明

1998 「伝統的集落における道路景観復元・整備と維持に関する研究 重要伝統的建造物群保存地区竹富町竹富島を事例として」， 研究報告， 日本建築学会九州支部

## 東京竹富郷友会

1985 『創立60周年記念誌 たけとみ』， アド・企画

## 仲松弥秀

1995 『神と村』， 伝統と現代社

## 長峯晴夫

1985 『第三世界の地域開発 その思想と方法』， 名古屋大学出版会

## 西里喜行

2001 「西塘考」， 『西塘傳・西塘考』， 全国竹富島文化協会編

## 西村幸夫・町並み研究会

2003 『日本の風景計画 都市の景観コントロール 到達点と将来展望』， 学芸出版

## 西山卯三

1968 『地域空間論』， 勁草書房

## 西山徳明

1999 「ツーリズム」， 『建築キーワード』， 土居義岳編， 住まいの図書館出版局

1995 「観光開発地域における文化変容と演出設計および景観管理計画に関する研究」， 京都大学学位論文

## 西山徳明、他

2004 『国立民族学博物館調査報告51 文化遺産マネジメントとツーリズムの現状と課題』， 国立民族学博物館

2006 『国立民族学博物館調査報告61 文化遺産マネジメントとツーリズムの持続可能な関係構築に関する研究』， 国立民族学博物館

## 普請帳研究会

1987 『沖繩・竹富島の家造り』

文化庁文化財部伝統文化課

- 2002 「文化財の保存・活用の新たな展開 文化遺産を未来へ生かすために 文化審議会文化財分科会企画調査「審議の報告」(概要)」, 『月刊文化財 No.462』, pp.4-8, 第一法規株式会社

星野紘

- 2001 「特集 人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」, 『月刊文化財 No.455』, pp.4-45, 第一法規株式会社

本庄正佳

- 1984 『竹富島古謡誌』

牧野清

- 1990 『八重山のお嶽 嶽々名・由来・祭祀・歴史』, あーまん企画

三村浩史

- 1997 『地域共生の都市計画』, 学芸出版社

宮澤智士

- 1996 『竹富島に何が可能か』, 東京ソルボンヌ塾

本中眞

- 1999 「文化と自然のはざまにあるもの 世界遺産条約と文化的景観」, 『奈良国立文化財研究所学報 第58冊 研究論集X』, 奈良国立文化財研究所

柳田国男

- 1978 『海上の道』, 岩波文庫

山村高淑

- 2006 「開発途上国における地域開発問題としての文化観光開発 文化遺産と観光開発をめぐる議論の流れと近年の動向」, 『国立民族学博物館調査報告 61 文化遺産マネジメントとツーリズムの持続的関係構築に関する研究』, 西山徳明編, pp.11-54, 国立民族学博物館

渡邊明義、田中琢、益田兼房、稲葉信子、Stovel. H.

- 1995 「特集 世界文化遺産奈良コンファレンス」, 『月刊文化財 No.377』, pp.4-46, 第一法規株式会社